

(別記)

## 須崎市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、高知県のほぼ中央、県都高知市から西へ約 30 kmに位置し、温暖な自然条件を活かした施設園芸、露地野菜、水稲、中山間地域では果樹栽培等が行われています。

施設園芸は、ミョウガ、キュウリ、シシトウ、花き等多彩な農産物が生産されており、中でもミョウガについては、全国一位の生産量を誇っており、一大産地を形成しています。

本市の農地は、平坦部においてはほ場整備を、中山間部においては農道、用排水路等を中心に整備を進めてきており、今後においても効率的かつ持続可能な農業を促進するため、各地区の営農形態や地域特性に応じた施設・機械の近代化、経営の合理化、生産と農業所得の向上を図る必要があります。

一方、農家の高齢化や後継者不足等による不作付地の増加が問題となっており、「株式会社土佐くろしお村村営みのり」が行う農地、農作業受託による飼料用米の生産と併せ、新規就農者への農地の斡旋や担い手への農地の集約化等の対策を推進する必要があります。

### 2 作物ごとの取組方針等

市内の水田については、適地適作を基本として、作物生産の維持・拡大を図ることとします。また、JA、県農業振興センター等との連携を図りながら、産地化への取組を支援していきます。

#### (1) 主食用米

大規模な農家は少なく、生産の大半は小規模農家が担っている現状であり、主に「コシヒカリ・ヒノヒカリ」の作付けが主流となっています。今後、主食用米の需要減が見込まれるため、飼料用米や野菜等への転作を推進していきます。

#### (2) 飼料用米

主な転作作物の一つとして取り組んでいきます。主食用品種を飼料用米として出荷することを基本としながら、可能な範囲で多収品種の作付けも推進し、生産者・JA等と連携しながら、作付面積の増大に取り組んでいきます。

#### (3) 飼料作物

市内での需要はわずかであり、自家消費用の作付けが1件あるのみですが、地域における飼料自給率の維持向上のため、今後も継続して取組を支援していきます。

#### (4) 高収益作物（野菜等）

##### ア 野菜

##### ① 施設野菜

本市を代表する作物であるミョウガについては、作付面積や栽培戸数も多く、全国一の生産量を誇っていることから、今後においても、収量・品質の向上、安全・

安心の確保、コスト削減、流通・販売の強化に努め、県内のミョウガ産地をリードしていきます。また、魅力のある産地を支える園芸品目としての地盤をさらに強固にするため、本市の地域振興作物として位置付け、担い手への農地集積による作付面積の拡大を図っていきます。

他品目の施設野菜についても、基幹品目として、ＪＡ、県との連携のもと推進しており、環境制御技術の導入等による省力化及び収量増での産地形成・強化による所得向上を目指すとともに、担い手への農地集積による作付面積の拡大を図っていきます。

## ② 露地野菜

施設園芸と同様に露地野菜等も本市の園芸の一翼を担っており、多種多様な作物が栽培されています。適地適作を基本とし、収量・品質の向上、安全・安心への取組強化、コスト低減対策、担い手による作付けの推進等に努め、消費者に選ばれる産地づくりを目指すとともに、水田のフル活用が図れるよう作付面積の拡大を推進していきます。

## ③ 直販所出荷品目

直販所は地域の小規模な農業者の販売ツールとして重要な役割を果たしており、地産地消の推進による地域農業の維持拡大を目指して取り組んでいます。

直販所の来客も増加傾向で品薄状態になることから、小規模農業者の作付を拡大するとともに、出荷量の確保に繋げていきます。

## イ 花き・花木

クジャクアスターやユリ類等、専作農家を中心として産地が維持されています。クジャクアスターに関しては周年出荷の維持、品質の向上等の取組を行い、産地としての信頼の維持に努めていきます。また、その他の花卉・花木についても、多様な水田活用の取組の一つとして支援していくとともに、担い手による作付けも推進していきます。

## ウ 果樹、雑穀、その他作物

本市では、温暖な気候を生かしたポンカン、文旦、小夏等の果樹栽培も盛んであり、これらのブランド化、担い手による作付を推進していきます。また、小規模ながら雑穀等の栽培についても推進していきます。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	276.00	263.00	253.00
飼料用米	13.83	14.33	15.40
飼料作物	0.44	0.44	0.44
その他地域振興作物			
野菜			
・施設野菜等	87.7	88.2	90.0
・露地野菜等	7.6	7.7	7.9
・直販所出荷品目	2.8	3.0	3.3

### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	現状値		目標値	
				(29年度)	(32年度)	(29年度)	(32年度)
1	ミョウガ、キュウリ、シシトウ、ニラ、インゲン、ピーマン、オクラ、ハスイモ、メロン、花き卉（施設）	地域振興作物に対する助成（施設園芸）	・作付面積 ・環境制御装置等の機器導入	(29年度) 87.7ha (29年度) 27.1ha	(32年度) 90.0ha (32年度) 39.0ha		
2	露地シシトウ、露地ニラ、生姜、露地オクラ、花き（露地）、果樹、雑穀	地域振興作物に対する助成（露地野菜等）	・作付面積	(29年度) 7.6ha	(32年度) 7.9ha		
3	直販所出荷品目	肥料や病害虫対策支援	・直販所出荷対象面積	(29年度) 2.8ha	(32年度) 3.3ha		
4	ミョウガ、キュウリ、シシトウ、ニラ、インゲン、ピーマン、オクラ、ハスイモ、メロン、花き（施設）、露地シシトウ、露地ニラ、生姜、露地オクラ、花き（露地）、果樹、雑穀、直販所出荷品目	担い手加算	・作付面積	(29年度) 73.3ha	(32年度) 77.9ha		
5	飼料用米	飼料用米の多収品種助成	・作付面積	(29年度) 3.4ha	(32年度) 3.7ha		

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

## 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり（省略）